

自尊感情が職業意識や結婚観に与える影響—ジェンダーの視点からの検討—

(代表者) 養護教育講座 教授 平田久美子

(分担者・協力者) 養護教育専攻 大学院3回生 梅木陽平

1. 目的

少子高齢化、人口減少社会の中で持続的成長を実現し、社会の活力を維持していくためには、1人ひとりが性別に関係なく、多様な能力を発揮できる社会の構築が不可欠である。総務省「労働力調査（基本集計）」によると、令和元年の女性の労働力人口に対する就業率は52.2%（前年比+0.9%）であり、年々増加傾向にある（H27年度比+3.7%）。このように、女性の社会進出が次第に高まってきてはいるが、男性と比較すると低く、就業率についてはおおそ20%の開きがある。また、厚生労働省「第3回21世紀成年者縦断調査」（平成24年成年者）によると、結婚前に就業していた女性のうち、結婚後も同一就業を継続している人の割合は54.2%、転職した人は22.3%、離職した人は23.5%となっている。このように、女性には結婚前後の就業形態の変化が多く見られる。厚生労働省「就業形態の多様化に関する総合実態調査（個人調査）」（平成26年）によると、正社員以外の労働者のうち、現在の就業形態を選んだ理由のなかで、女性の35.9%が「家庭の事情（家事・育児・介護等と両立しやすいから）」を挙げており、男性5.6%に対し、非常に高い割合を占めていることから、女性にとって、結婚し家庭を持った上で結婚前のように仕事を続けることは依然として厳しい状況がうかがえる。

自尊感情の高低は個人の意識や行動を規定する一因であり、自己に対して肯定的な感情を持つことは、社会の中で、適応的に生きていくうえで重要である。岡田らは自尊感情の性差を分析し、男性の方が女性に比して自尊感情が高いことを示している。2019年に行った大阪教育大学の学生252名を対象とした調査では、女子学生の方が自己の容姿などに関する否定的な感情が強く、男子学生よりも自尊感情が低いという結果を得た。

自尊感情と職業意識や結婚観との関係が明らかになれば、女性の自尊感情を高めることの社会的意義が明確となり、女性の積極的な社会進出の促進や結婚後も教育現場でリーダーシップを発揮できる人材の育成につながる事が期待される。

本研究の目的は、教員志望の学生と教員を志望しない学生を対象に、自尊感情と職業意識、結婚観を把握し、自尊感情が職業意識や結婚観に及ぼす影響とその性差を明らかにすることである。

2. 活動の取り組み

本年度の活動は以下のとおりである。

○アンケート調査

大阪教育大学に在籍する4回生〔男性44名、女性96名、その他1名〕の計141名を対象にジェンダーの視点から自尊感情が職業意識や結婚観に与える影響について検討するため、アンケート調査を行った。

1. 調査方法

調査は新型コロナウイルス感染拡大の現状を踏まえ、“Google フォーム”を使用しオンライン上で、2020年11月に無記名自己記入式で行った。調査項目の構成は(1)調査対象者の属性に関する項目（年齢、性別、進路希望）、(2)自尊感情についての項目、(3)結婚観についての項目（結婚願望の有無、子ども）、(4)職業意識についての項目（キャリアアップ、育休、働き方の希望）である。また、アンケートは、あらかじめ設定した選択肢の中から択一する方法と、年齢等の数値や選択肢以外の回答を自由に記入する方法を用いた。自尊感情については、桜井⁴⁾による自尊感情尺度を用い、計10項目について得た回答に応じて、自尊感情を得点化した。

進路は来年から教員として働く予定である人を教員志望、教員以外の一般企業などに就職予定である人を非教員志望とした。

2. 統計解析

調査対象者を性別、進路希望、自尊感情、結婚観、職業意識の側面から検討した。自尊感情に関しては、桜井の『ローゼンバーグ自尊感情尺度 日本語版の検討』(2000)を参考に、10項目4評定で個人の自尊感情を40点満点で点数化し、点数が高い方がより自尊感情も高いとした。なお、菅(1984)は青年における平均の高さは25点であることを指摘しており、Schmitt&Allik(2005)の国際比較研究でも、日本の健常者の平均は25点であるため、本研究では、25点以上を自尊感情が高い、25点以下を自尊感情が低い、とした。データの分析には“SPSSver.25”を使用した。カテゴリ変数の比較には χ^2 検定を行い、有意水準は0.05%とした。

○論文の作成

「自尊感情が職業意識や結婚観に与える影響—ジェンダーの視点からの検討—」と題し、論文を作成した。

○学会での発表

国際ジェンダー学会にて発表予定

3. 研究の成果

本研究により得られた結果は以下の3点である。

1. 自尊感情は男性の方が女性よりも高かったが、自尊感情の高低が職業選択(教員志望か否か)、キャリアアップ希望には影響していなかった。しかしながら、自尊感情の低い人の31.8%、自尊感情の高い人の9.6%は、将来、結婚を考えていないと回答し、自尊感情が低い人の方が結婚願望も低い結果となった(図1)。

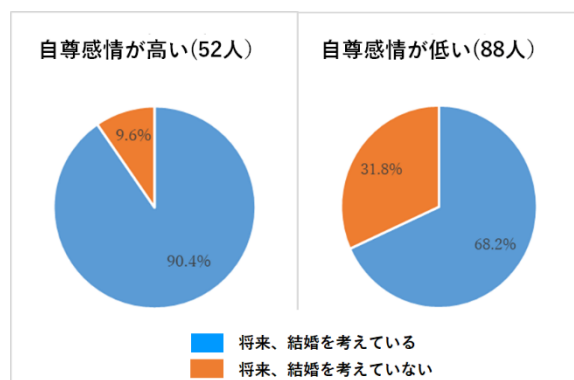


図1. 自尊感情と結婚願望

2. 将来結婚を考えている107人を対象とした調査において、結婚後に働き方を変えると答えた男性は44.7%であったのに対し、女性は69.6%であり、女性の半数以上が働き方を変えようと考えていた(図2)。また、育児休暇については、女性の97%が取得を考えていたが、男性では58.3%にとどまっていた(図3)。

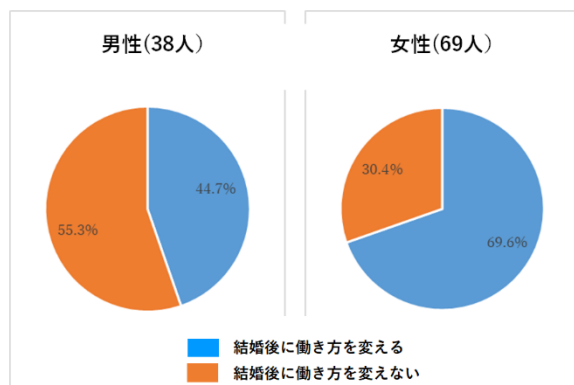


図2. 結婚後の働き方について

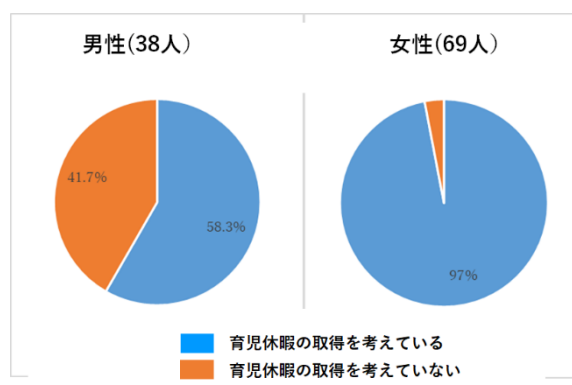


図3. 育児休暇の取得について

3. 将来のキャリアアップについては、男性の81.8%、女性の66.4%が希望しており、男性の方が高い傾向があったが、自尊感情の高低や教員志望と非教員志望との関係は認めなかった。

4. まとめと今後の取り組み

本研究では、男性の方が女性よりも自尊感情が高く、自尊感情が高い人ほど結婚願望が高いという結果を得た。婚姻率の低さと少子化が問題となっており、女性に限らず自尊感情を高めていくことが、社会問題の解決に繋がることが期待される。また、キャリアアップしたいという考えに男女差は見られず、女性も男性と同程度のキャリア志向が見られた。その一方で、結婚後の働き方や育休取得に対する考え方に大きな男女の違いがあった。この結果を踏まえて、性別にとらわれず、互いの意思を尊重し合える意識を持てるような教育の実施が必要であると考えられた。

結婚後の働き方に対する学生の意識改革を行うため、研究活動、社会活動に引き続き邁進したいと考えます。

この様な機会をいただけたことに感謝申し上げます。